

会 議 録

日	令和5年11月20日(月)	時間	13:30~14:30	場所	糸魚川市こころの総合センター 1階 地域交流ホール
件名	令和5年度 第2回糸魚川市地域自立支援協議会				
出席者	【出席者】 委員：斉木委員、大谷委員、牛木委員、岡尾委員、横澤委員、大久保委員、吉井委員、沖田委員 田中委員、野本委員、岡崎委員、山本委員 事務局：地域生活支援センターこまくさ 内藤管理者 磯貝相談員 福祉事務所 磯貝所長、山岸次長、仲谷係長、岡野主査 【欠席者】 中村委員、岡田委員				
	傍聴者定員		一人	傍聴者数	0人

会議要旨

進行（事務局）

1 開会

要綱の規定により、委員の半数以上の出席であるため、本会は成立する。

2 福祉事務所長あいさつ

大変暑かった夏から一気に冬へと突入し、学校ではインフルエンザも流行し始めている。本日も非常に寒く、週末には降雪予報も出ており、委員のみなさまも体調管理には十分ご留意いただきたい。

本日の協議会の大きな内容は、次期障害者計画等の策定についてであり、計画の策定に向け、市民アンケートやグループインタビュー等で共有した課題などを、これから3年間の計画にどう反映させていくかを専門部会で検討していただいた。

事前送付した素案は、それらの意見を計画の形に整えたものでなり、みなさまのご意見を伺い、この場で協議していきたい。

国では、次期計画の大きな柱を地域共生社会の実現としており、それに向けて、「相談支援の強化」、「地域での自立した生活への支援」、「福祉就労から一般就労への移行」等を取組として計画に盛り込むこととしている。そのような国の動向を捉えつつ、当市でどのような支援体制を組むか、委員のみなさまのそれぞれの立場から忌憚のないご意見をいただきたい。

3 報告・協議事項

(1) 第7期糸魚川市ささえあいプランの策定について

資料により事務局から説明

(委員) 精神障害者保健福祉手帳の所持者が、平成26年から令和5年で2倍に増えているが理由は何か。
 (事務局) 手帳取得の要件となりうる精神疾患をお持ちの方が増加していること、手帳制度が浸透してきていること、発達障害の方が手帳を取得するケースが増えていること、という複数の理由により、手帳の所持者数が増加していると考えます。

(委員) そうなるとニーズが増えるので、対応するサービスが必要になると感じた。

次頁へ

(委員) 知的障害の18歳未満の増加は、恐らく0歳から6歳の間の方が増えていると見ているが、それに対してめだか園の利用は減っている。もう少し、めだか園でのサービス利用について周知が必要だと感じた。

(2)意見交換・情報交換

(委員) 福祉有償運送のぐりーんバスケットが12月末で事業を中止すると伺ったが、中止後の具体的な対応策はあるか。

(事務局) 福祉有償運送を行っているNPO法人ぐりーんバスケットにおいて、運転を行う提供会員の高齢化や新たな手がいないという人材不足等があり、本年12月末をもって運送業等の全事業を終了し、法人も年度末くらいまでには解散する見込みで準備をされるとお聞きしている。福祉有償運送は、バス等の公共交通機関を、お体の状況等で利用できない方に対して、提供会員が有償ボランティアとして移送サービスを行っていた。事業終了により、1月以降に登録者約270名の利用会員の移手段の一つがなくなる状況にある。市では、登録者全員への対応は難しく、継続的かつ頻繁に通院が必要な人工透析を行われている方に対して、1月から支援できるように準備を進めている。

(委員) 自身もぐりーんバスケットを利用しているが、対象者本人が同乗しないと利用できない等の制約がある。本人の具合がわるくて外出できない時でも、介護者は代わりに菓の受け取りや、食料品の買い出しがあるが、その時に利用できない。

(事務局) ぐりーんバスケットは、基本的にはご本人がご本人の移手段として利用する有償ボランティアなので、ご本人が乗っていることが前提になる。

(委員) 現在、バスダイヤは糸魚川病院を中心に組まれているが、糸魚川駅を中心に運行してもらえれば使いやすい。また、糸魚川バス営業所から糸魚川病院の間の回送が多い。計画素案のグループインタビューにも公共交通への要望が載っている。あとは、ダイヤや系統図をもう少しわかりやすくできないものか。それから、低床式バスでないと、高齢者は利用しづらいと思う。

(事務局) 路線バスは、市では都市政策課が担当しており、今回のぐりーんバスケットの件を含めて、市全体で移手段をどのように確保していくか、どのような手法が一番効果的で効率的かということをお話している。そこでは、ダイヤの問題や、低床バスの方が当然乗りやすいということもご意見として、私どもも担当課も聞いているが、すぐに対応できるかということ、今の赤字補填をしている状況の中で、対応する余力は出てこないのが現状のようだ。しかしながら、車両更新の時期には、みなさんの乗りやすい車両の導入を考えていると聞いている。

(委員) 計画素案は、特に問題ない。人口が減少し、障害者数が横ばいという状況で、新しい施設を整備する必要はないと感じる。人口が減少すれば、行いたいサービスができなくなるし、サービスの内容や提供方法も量から質というか、内容の変更をしていかないと非常に難しい。糸魚川は今こういうことで困っている、それを解決するにはどうするか、ボランティアを集めるところは社会福祉協議会などにやってもらう等、他の真似ではない糸魚川方式でできないものか。みんなが障害者のために一肌脱ぐとか、人を動かすことが大事だと思う。

(委員) ワークセンターにしうみで一所懸命取り組んでいる「糸魚川産にいがた地鶏」を一つの産業として育成して、そういうところに新しく障害者を雇ってもらう。昼間は仕事をして賃金を得て、それで社会参加する流れができるとうい。

次頁へ

(委員) ぐりーんバスケットを利用できなくなる方は、手帳を持っていたり、老人福祉などで繋がりがあ
るだろうから、そこに相談していくことになるのだろうか。

(事務局) 現段階では、1月すぐに必要ということで人工透析の方への対応を最優先に考えている。後はそ
の方のお体の状況で、例えば介護保険を使いたいということであれば介護度によって使えるサービ
ス等もあるので、ケアマネージャーなどにご相談いただく。サービスがないということになれば、
ぐりーんバスケットがなかったときと同じような、バスやタクシーのご利用に戻っていくことにな
るかと思っている。

(委員) 地域みんなで支えられるようにしていければいいと思う。

(事務局) 実際、市だけの対応では難しいというところもあるので、地域とか、少し昔のご近所づきあい
はないが、互助や共助の中で生活全般を考えていく流れになってきているかと思う。

4 その他

事務局より、能生地域におけるグループホームの整備及び重度身体障害児の施設入浴等について2点報
告した。

5 閉会

以上